

委員から寄せられた意見・感想

資料1 「神奈川県におけるいじめの状況について」について

- 当面の対策としては、いじめがいじめとして認知されることに重点を置くべきであり、この観点からすれば、現時点においては、いじめの認知件数が増えることについて肯定的評価を行うことはあっても、否定的な評価を行うべきではない。
- 大切なことは、いじめを認知した後の対応。その点、「解消率」が上昇していることは評価できると思う。子どもの人間関係は大人が思うほど単純ではないことも多いので、解消したとみなした後も、継続して見守る姿勢が大切だと思う。
- コロナ禍の中で、大人がいじめを発見し解消に向かわせるためには、かかわる大人たちすべてが、今まで以上に子どもたちの言動に注意を払う必要がある。
- コロナ感染予防と子どもの心の問題を考えなければならない。どれほどの影響があったか、通常登校と不登校とでは対応が分かれると思うので、データを集めてストレスを解消する方法や支援を考えていけば、いじめの予防方法が見つかると思う。
- 子どもの頃から正しくネットリテラシーを学ぶ必要性を強く感じている。
- いじめは悪であり、絶対してはならないと言い聞かせるよりも、子どもを見守り、どうすればよいか一緒に悩んで考え、子どもがいじめに対して立ち向かうことを支えることが必要だと考える。
- 令和2年度からのコロナ禍の中で、いじめ件数がどう推移したのか、また今後どう推移していくのか注視していく必要があると考えている。

資料4 「令和元年度「SNSいじめ相談@かながわ」実施結果」について

- 大変有効な方法と思う。年間を通してできるとよい。
- 相談先に多様な選択肢が用意されていることは、セーフティーネットとして望ましいことと考える。利便性、匿名性が高く、子どもたちが慣れているコミュニケーション手段として抵抗が少ないと思われる。
- ネットの中には、子どもたちの悩みを利用しようという悪質な人もいるので、ネットの中に、健全な相談のサイトがあるということが、重要な価値があることだと思う。
- 今後もSNS相談には期待したい一方、次につなげる支援をどれだけ具体的に検討できるかが引き続き課題だと思う。
- 相談員のスキルについて、相談内容に的確に応じられるよう、心理・臨床だけでなく、社会福祉、教育(学校)の状況に明るい方々のスキルも求められると考える。
- 財源確保など課題が大きいことは十分理解できるが、子どもたちのニーズがある以上、何らかの形で継続できるとよいと思う。

- 学校で起こっているいじめについて、直接学校関係者に話すことをためらう生徒がいることは予想される。そのような生徒にとって、様々な場面や機関で相談ができるということ、特にSNSを通じて匿名で相談できるということが、安心感につながるのではないかと考える。
- いじめに関する相談以外の悩み相談の件数が多いが、この場が設定されていなければ、相談者は不安な気持ちを抱えたまま生活し、望ましくない方向へ進んでしまう可能性も想定される。つらい気持ちを吐き出し、誰かに自分の悩みを聞いてもらえたと感じられることは意義がある。